

令和元年度 歯科衛生士学校卒業生の実態調査

組織・調査部

大阪府歯科衛生士会では、毎年「歯科衛生士勤務実態調査」を行っております。

今年度は、歯科衛生士養成機関にご協力いただき卒業生の実態調査を実施しましたので、結果について以下のとおり報告いたします。

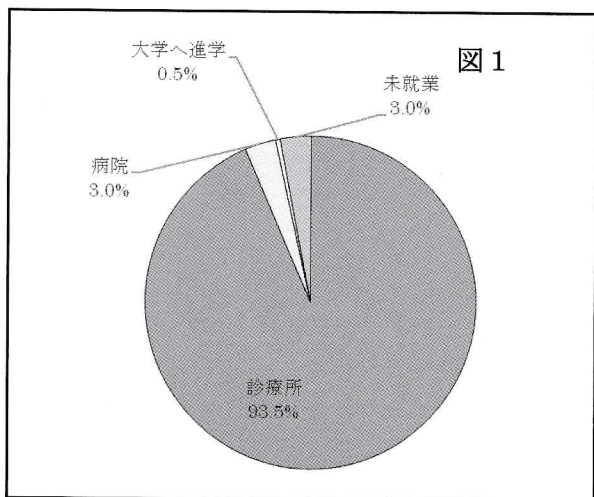
令和元年7月14日に大阪府内の卒業生のいる歯科衛生士養成機関15校(昼夜間部があるところは2件とカウント)にアンケートを送付し、卒業生の実態について調査いたしました。

<調査結果>

1. 回答が得られたのは15校中14校でした。
(回答率93.3%)

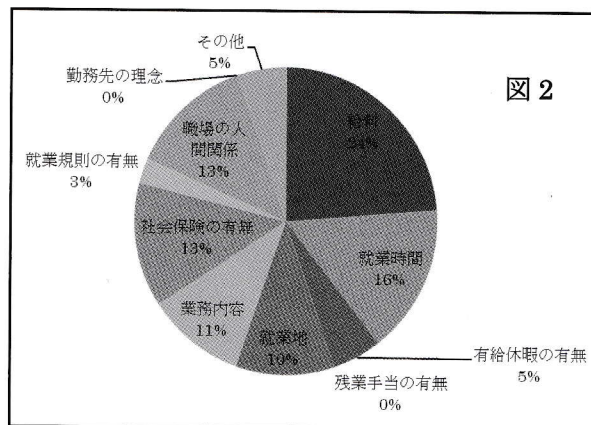
2. 卒業生の進路の内訳について(図1)

回答のあったもののうち就職者数702人中619人が診療所に就職していました。



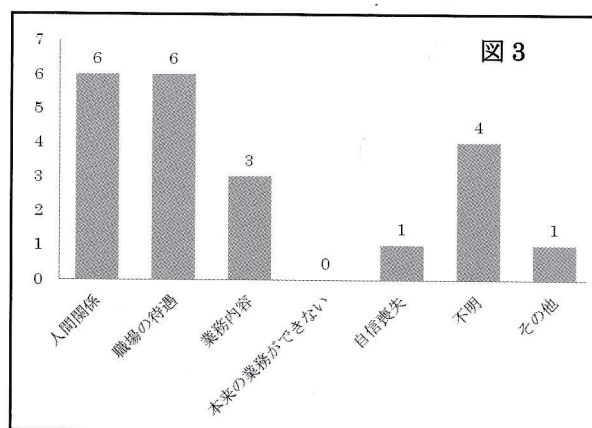
3. 卒業生が勤務条件として重視した項目(図2)

回答のあったもののうち勤務条件として重視した項目は「給料」「就業時間」次いで「社会保険の有無」「職場の人間関係」「業務内容」「就業地」「有給休暇の有無」「就業規則の有無」でした。



4. 卒業生で勤務先の変更理由(図3)

卒後1年以内に勤務先を変更した人数は14校で合計が16名あり、勤務先の変更理由は「人間関係」「職場の待遇」次いで「不明」「業務内容」「専門職としての自信喪失」でした。



5. 過去3年間の平均求人倍率(平均求人件数)について(表1)

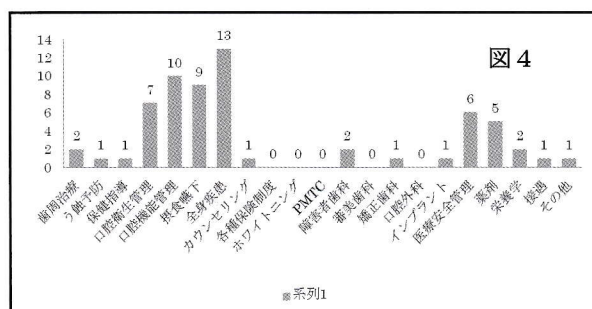
表1 歯科衛生士平均求人倍率および件数

	H28	H29	H30
平均求人倍率(倍)	21.0	18.2	16.6
平均求人件数(件)	1066.8	1020.2	934.1

6. 卒業生に受講させたい研修内容(図4)

(複数回答可)

回答のあったもののうち、卒業生に受講させたい研修内容は「全身疾患」「口腔機能管理」「摂食嚥下」「口腔衛生管理」「医療安全管理」「薬剤」等でした。



7. 卒業生からの相談内容

回答のあったもののうち、よく聞く卒業生の相談内容は以下のとおりです。

- ・職場の人間関係
- ・職場の待遇
- ・業務内容・業務量
- ・再就職
- ・本来の歯科衛生士の業務ができない

8. 歯科衛生士会の事業の活用について

在校生や卒業生は活用しているかという問いに対しては、4校が活用している、1校が活用していない、9校がわからないでした。活用できるように担当の先生からお声かけしていただいているかの問いには、12校が声かけしている、1校が声かけしていない、1校が掲示のみでした。

<まとめ>

卒業生の進路は診療所がほぼ9割を占め、卒業生が勤務条件として重視した項目は「給料」「就業時間」が上位になり「社会保険の有無」はそれに次ぐものとなりました。

卒業生の勤務先変更の主な理由として「人間関係」「職場の待遇」と続き、就職時にはわからない部分で職場を変更している者が多いことが伺えました。歯科衛生士の平均求人倍率は16倍を越えており、周術期口腔機能管理等、歯科衛生士の業務に対して保険点数の加算がついたものが多くなり、日本歯科医師会でも歯科衛生士不足は問題視されています。家庭に入ってしまった潜在的な歯科衛生士の掘り起こしも、歯科衛生士会の課題のひとつではないかと思われます。

卒業生に受講させたい研修内容は、上位3項目が「全身疾患」「口腔機能管理」「摂食嚥下」となり「口腔外科」「PMTc」などの希望はありませんでした。歯科衛生士の業務範囲が拡大し、診療所だけでなく在宅、地域とのつながりが必要となってきていることが伺えます。口腔内だけの問題では治まらない範囲の研修がますます必要となってきます。

卒業生からの相談内容では「人間関係」「職場の待遇」が上位を占めています。実際に働くようになり先輩との関係、歯科衛生士の業務ができないなど日々の業務に疑問を持ち相談をする卒業生が多く、前述のように勤務先の変更や離職の原因ともなっていることがわかりました。歯科衛生士会としても離職率を少しでも低くするため、新卒者に対する懇親会等を企画し、職場での悩み等を聴けるサポート体制を整える必要があると思われます。

これらの結果を踏まえ、本会としては今後歯科衛生士業務の様々な課題に取り組み、より良い歯科衛生士業務の充実に寄与するため、さらに歯科衛生士養成機関と連携を図っていきたいと考えています。

最後になりましたが、ご協力いただきました歯科衛生士養成機関の先生方皆さまに厚くお礼を申し上げます。